

入選

辞書に書き加えた意味

福井県 南中山小学校

五年 身延 枇真璃

『人に対する思いやりが深いこと』（チャレンジ小学国語辞典）。

親切ってなんだろう。辞書で調べてみた。やっぱり、わかるようでわからず、納得がいかないと思ったとき、思い出されたのはあの日のできごとだった。

小学3年生のある日、私の机におどろくような言葉が書かれていた。これは、本当に私の机なのだろうか、みんなの机にも同じことが書かれているのだろうか……。いや、みんなも同じだったらいいな、私だけなんていやだ。机に落書きをされるほど、だれかをいやな目にあわせたことは絶対はない。

昨日だってみんなと楽しく遊んでいたのだから。本当にとつぜんのできごとだったので、おどろきとはずかしさとこわさで私は泣いてしまった。

朝から悲しさでいっぱいになった私のとなりで、

「だいじょうぶだよ。私たちが、ひーちゃんの机を見はってあげるから。」

と、一人の友だちがクラスみんなの前で言ってくれたのだ。その声を受けて、「ぼくも」「私も」と、机見守り隊が結成された。そして、机に書かれた心ない言葉を消してくれた。

（もしかしたら、このクラスに犯人がいるのだろうか……）

と、ふくらんでいくいやな気持ちを打ち消し、クラスの友だちを信じる勇気もあたえてくれたのだ。

当時、いつもなんでも話せるお母さんに、机の落書きのことは言えずにいた。お母さんを悲しませたくはなかったし、心配をかけたくなかったからだ。

しかし、元気がなくなっていく私に気づいたお母さんが、

「ひーちゃん、苦しいことやつらいことは話して半分こにできるんだよ。」

と言ってくれた。このひとことで、ダムの水があふれたかのように、私はすべてを話すことができた。お母さんにだきしめてもらって、いっしょに泣いて、最後はいっしょに笑うこともできた。私の気持ちを受けとめてくれたおかげで、落書きをした人をうらまずにすんだ。

だれがやったのかはわからないままだったが、犯人さがしをしてほしいとは思わなかった。友だちや家族が、「あなたは一人じゃないよ」と思わせてくれたからだ。何より、みんなが決して自分たちの気持ちをおしつけなかったことが、私の心を救ってくれたのだ。

私は、あのできごとを経験して、本当の親切とは何かを知った。自分がやってあげたいことをやるでもなく、ありがとうを言ってもらうためにやることでもない、改めて感じた。

親切の言葉の意味は、辞典の通りでまちがいないと思う。しかし、私はもう少しだけ書き加えたい。

『相手の心によりそい、一人ではないよと、安心感や勇気をあたえるような言葉かけや行動。

思いやりが深いこと』。